

AXIS Body Worn Live, Self Hosted

AXIS Body Worn Liveとは

AXIS Body Worn Liveを使用すると、装着式カメラのユーザーは、Wi-Fi® またはモバイル ネットワーク経由でライブビデオとオーディオをストリーミングできます。オペレーターはライブ映像を見ることができます。ビデオストリームは安全な送信のために暗号化されます。

AXIS BodyWorn Liveを設定する際、2つのホスティングオプションがあります：

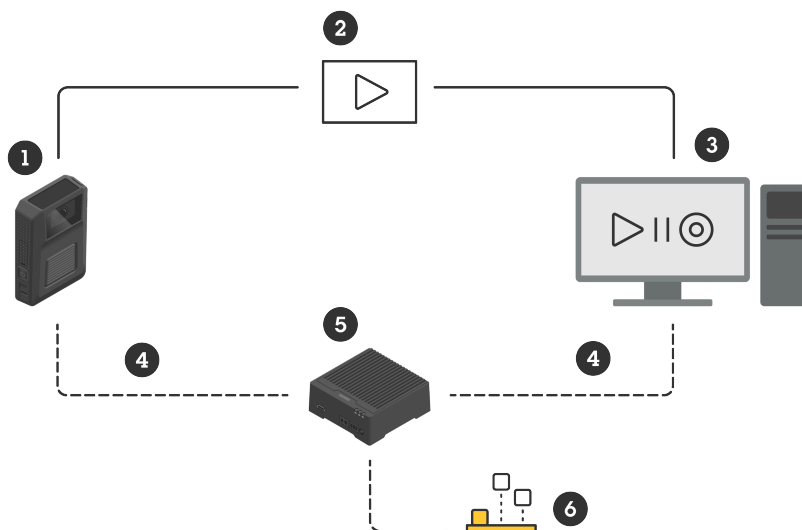
 **Hosted by Axis** – Axisクラウドでホストされます。

 **Self-hosted** – ご自身でホストします。

このマニュアルは、**セルフホストオプション**の設定と使用に役立ちます。ここではカスタム設定について説明しますが、設定はVMS(ビデオ管理ソフトウェア)によって異なります。詳細については、VMSのドキュメントを確認してください。

その他のオプションの設定手順については、*AXIS Body Worn Live, Axis-Hosted ユーザーマニュアル*を参照してください。

ソリューションの概要



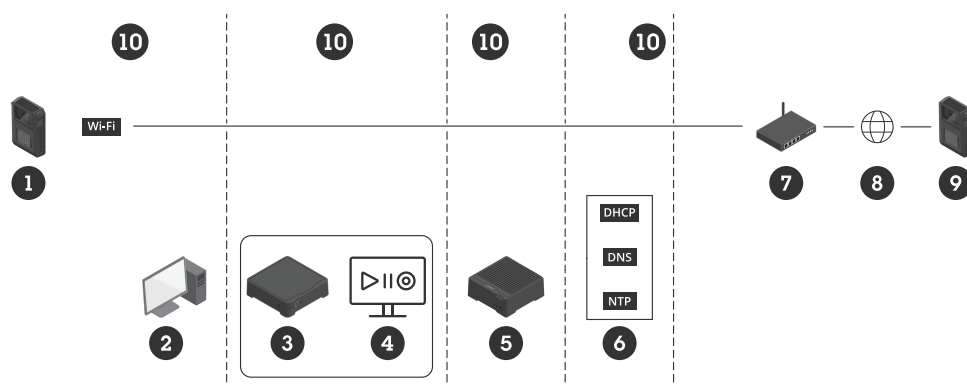
- 1 装着式カメラ
- 2 Peer-to-Peer (P2P) ストリーミング (暗号化)
- 3 WebRTCクライアント
- 4 WebRTCシグナリング。
- 5 AXIS Body Worn Live, Self Hosted Serverデバイス
- 6 AXIS Body Worn Liveセルフホストサーバーアプリ

AXIS Body Worn Live Self-hosted Serverアプリ (6) がAXIS Body Worn Live, Self Hosted Serverデバイス (5) にインストールされています。これは、装着式カメラ (1) とWebRTCクライアント (3) の間でWebRTCシグナリング (4) を設定するために使用されます。接続が確立されると、装着式カメラは暗号化されたピアツーピア接続 (2) を使用して、ライブビデオをWebRTCクライアントにストリーミングします。

AXIS W401 Body Worn Activation KitまたはAXIS D3110 Mk II Connectivity HubのどちらかをAXIS Body Worn Live, Self Hosted Serverデバイス (5) として使用できます。

ネットワーク推奨事項

これは、プロフェッショナルなセグメント化されたネットワーク設定の一例です。この例のように、ネットワークをインターネットに接続する必要はありません。ネットワーク設定のサポートについては、IT管理者にお問い合わせください。



- 1 Wi-Fiに接続された装着式カメラ
- 2 ストリーム視聴用クライアント
- 3 システムコントローラー
- 4 ビデオ管理ソフトウェアサーバー
- 5 AXIS Body Worn Live, Self Hosted Server デバイス
- 6 ネットワークインフラストラクチャサービス
- 7 ゲートウェイ/ファイアウォールソリューション
- 8 インターネット（インターネット接続ネットワークのみ）
- 9 モバイルネットワークに接続された装着式カメラ（インターネットに接続されたネットワークの場合のみ）
- 10 異なるネットワークセグメント

推奨:

- Wi-Fiを使用する場合は、IEEE 802.11k/v/rおよびWPA2-Personal/WPA2-PSKに対応しているアクセスポイントを推奨します。
- 必要に応じてネットワークをセグメント化します（この例では4つのセグメント – 10）。装着式システム（システムコントローラー – 3、ビデオ管理ソフトウェアサーバー – 4）は別のセグメントにあります。
- 推奨される最低限のネットワークインフラストラクチャサービスは、DHCP、DNS、およびNTPサーバー（6）です。
- ネットワークがインターネットに接続されている場合、AXIS Body Worn Live, Self Hosted Server デバイス（5）は、パブリックIPv4アドレスから到達できる必要があります（CGNATなし）。
- ネットワークがインターネットに接続されており、モバイルネットワークに接続された装着式カメラを使用する場合、AXIS Body Worn Live, Self Hosted Server デバイス（5）に適切なDDoS緩和策（ゲートウェイ/ファイアウォールソリューション – 7）が適用されている必要があります。
- 証明書要求に署名するための証明機関へのアクセス。
- 装着式カメラ1台あたり2.5 Mbps（360p 解像度）または8 Mbps（720p 解像度）に対応するインフラストラクチャー。

ネットワーク要件

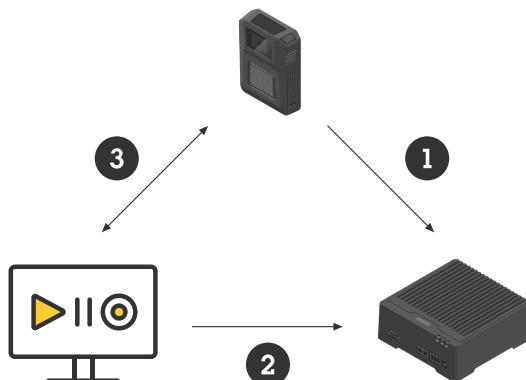
以下にはポートフォワーディングおよび/またはファイアウォールの設定が必要です。

- 装着式カメラおよびビデオ管理ソフトウェアのAXIS Body Worn Live Self-hosted Serverアプリへのアクセス

- 装着式カメラビデオ管理ソフトウェア間のピアツーピア通信

重要

ピアツーピア通信が不可能な場合、デバイスはアプリのTURNサーバーを使用しますが、これはお勧めしません。詳細設定の **[Relay endpoint port range (リレーエンドポイントポートの範囲)]** は、装着式カメラとビデオ管理ソフトウェアの両方について、どのポートがアプリのTURNサーバーに開放されるのかを制御します。



AXIS Body Worn Live, Self Hosted Serverデバイスから見たインバウンドポート:

接続	ポート番号	説明
1	TCP 8082	装着式カメラがアプリに存在を知らせるために使用する。
1	TCP/UDP 3478	装着式カメラがアプリからパブリックIPを取得するために使用する (STUN)。
1	TCP 8883	装着式カメラがその位置情報や状態などのMQTT情報をアプリのMQTTブローカーに送信するために使用する。
2	TCP 443	ビデオ管理ソフトウェアがアプリと通信するために使用する (通知およびイベント)。
2	TCP/UDP 3478	ビデオ管理ソフトウェアがアプリからパブリックIPを取得するために使用する (STUN)。

装着式カメラから見たアウトバウンドポート:

接続	ポート番号	説明
3	TCP/UDP 49152–65535 (エフェメラルポートの範囲)	詳細設定の [Host endpoint port range (ホストエンドポイントポートの範囲)] は、装着式カメラがピアツーピア通信に使用するポートを制御します。

制限事項

カメラ接続は IEEE 802.1x、IPv6、プロキシに対応していません。

使用を開始する - ガイド付き設定

装着式システム、AXIS Body Worn Live, Self Hosted Serverデバイス、およびPCがすべて同じネットワークに接続されている場合、ガイド付き設定が可能です。ガイド付き設定では、カメラがストリーミングにモバイルネットワークではなくWi-Fiネットワークを使用する必要があります。

ガイド付き設定を開始する:

1. AXIS Body Worn Live, Self Hosted Serverデバイスが新品ではない場合は、デバイスを工場出荷時の設定にリセットします。手順については、help.axis.comにあるデバイスのユーザーマニュアルを参照してください。
2. デバイスを最新のAXIS OSバージョンにアップグレードします。
3. システム>ネットワークに移動し、静的IPアドレスを割り当てます。
4. *AXIS Body Worn Liveセルフホストサーバーアプリのインストール, on page 6*
5. スイッチを使用して、**AXIS Body Worn Liveセルフホストサーバー** アプリを起動します。
6. アプリを開きます。
7. **[Guided setup (ガイド付き設定)]** を選択します。
8. 装着式システムのホスト名、ユーザー名、およびパスワードを入力します。
9. **続行**をクリックします。
10. AXIS Body Worn Managerに移動し、Wi-Fiネットワークを割り当てます。手順については、*Wi-Fiネットワークを割り当てる, on page 7*を参照してください。

注

ライセンスを追加すると、評価期間終了後もソリューションを引き続き使用できます。装着式システムを追加したい場合、ガイド付き設定を再度使用することはできません。

使用を開始する - 手動設定

AXIS Body Worn Liveにライブ ストリーミングするには、以下の手順をすべて実行する必要があります。

1. *AXIS Body Worn Manager*にシステムコントローラー設定ファイルを作成する, on page 6
2. *AXIS Body Worn Live, Self Hosted Server*デバイスを準備する, on page 6
3. *AXIS Body Worn Live*セルフホストサーバーアプリのインストール, on page 6
4. *AXIS Body Worn Live, Self Hosted*を設定する, on page 6
5. *AXIS Body Worn Live*と*AXIS Body Worn Manager*の接続, on page 7
6. ライセンス, on page 7

AXIS Body Worn Managerにシステムコントローラー設定ファイルを作成する

1. *AXIS BodyWorn Manager*で、アドオンサービス  に移動します。
2. **AXIS Body Worn Live**で、セルフホストをクリックします。
3. [インストール] をクリックします。
4. 証明書の有効期間に、ファイルの有効期間を日数入力し、次へをクリックします。
5. システムコントローラー設定ファイルで、ダウンロードをクリックして、システムコントローラー設定ファイルをダウンロードします。

AXIS Body Worn Live, Self Hosted Serverデバイスを準備する

AXIS W401 Body Worn Activation KitまたはAXIS D3110 Mk II Connectivity Hubを使用して、AXIS Body Worn Live Self-hosted Serverアプリを実行します。

1. デバイスが新品でない場合は、工場出荷時状態に初期化してください。手順については、help.axis.comにあるデバイスのユーザーマニュアルを参照してください。
2. デバイスを最新のAXIS OSバージョンにアップグレードします。

AXIS Body Worn Liveセルフホストサーバーアプリのインストール

開始する前に

axis.com/products/axis-body-worn-liveから、AXIS Body Worn Live Self-hosted Serverアプリをダウンロードします。

1. *AXIS Body Worn Live, Self Hosted Server*に使用するデバイスで、[Apps (アプリ)] に移動します。
2. [Add app (アプリの追加)] をクリックします。
3. アプリをドラッグアンドドロップし、インストールをクリックします。

AXIS Body Worn Live, Self Hostedを設定する

1. *AXIS Body Worn Live, Self Hosted Server*を実行するデバイスで、[Apps (アプリ)] に移動します。
2. スイッチを使用して、**AXIS Body Worn Live**セルフホストサーバー アプリを起動します。
3. アプリを開きます。
4. [Manual setup (手動設定)] をクリックします。
5. サーバーデバイスのパブリックIPv4アドレスまたはホスト名を入力します。
6. 設定の適用をクリックします。

AXIS Body Worn LiveとAXIS Body Worn Managerの接続

1. AXIS BodyWorn Liveセルフホストサーバーアプリの設定で、**Body Wear Systems** に移動し、**追加** をクリックします。
2. **ファイルを選択** をクリックし、AXIS Body Worn Managerで作成したシステムコントローラ設定ファイルを選択します。
3. **[追加]** をクリックします。
4. ライブセルフホストサーバー設定ファイルをダウンロードします。
5. AXIS Body Worn Managerで、**[Add-on services (アドオンサービス)]**  **> [AXIS Body Worn Live]** に移動します。
6. **[Import (インポート)]** をクリックします。
7. ライブセルフホストサーバー設定ファイルを選択します。
8. ストリーミングにWi-Fiを使用する場合は、Wi-Fiネットワークを割り当てる, *on page 7*の手順に従ってください。
9. ストリーミングにモバイルネットワークを使用する場合は、**設定 > カメラ > モバイルネットワーク** に移動して設定を構成します。
10. **カメラプロフィール > AXIS Body Worn Live** に移動して、**ストリーミング** を許可します。
11. ストリーミングにWi-Fiを使用する場合は、**ワイヤレス接続** をクリックしてネットワークを選択します。

Wi-Fiネットワークを割り当てる

1. AXIS Body Worn Managerで、**[Settings (設定)]**  **> [Camera (カメラ)]** に移動します。
2. **[Wi-Fi® networks (Wi-Fiネットワーク)]** で **[Add (追加)]** をクリックします。
3. Wi-Fiネットワークの**Name (SSID) (名前 (SSID))** と**Password (パスワード)**を入力します。
4. **[追加]** をクリックします。
5. **[Camera profiles (カメラプロフィール)]**  に移動します。
6. Wi-Fiネットワークの割り当て先のカメラプロフィールを選択します。
7. **[Wireless connection (ワイヤレス接続)]** パネルを展開します。
8. カメラプロフィールに割り当てるWi-Fiネットワークを選択します。

ライセンス

AXIS Body Worn Live, Self Hostedのライセンスを付与するには、システムファイルをエクスポートし、AXIS License Managerにアップロードしてライセンスファイルを生成してからファイルをインポートする必要があります。

1. AXIS Body Worn Managerで、**[Settings (設定)]**  **> [AXIS Body Worn Live] > [License (ライセンス)]** に移動します。
2. **[Add licenses (ライセンスの追加)]** をクリックして、説明を展開します。
3. **[Export (エクスポート)]** をクリックして、システムファイルをPCに保存します。
4. *AXIS License Manager* にログインします。
5. *AXIS License Manager* で、システムファイルをアップロードします。手順については、*My Systems* ユーザーマニュアルの *License offline systems* (オフラインシステムをライセンスする) を参照してください。
6. サブスクリプションを開始するには、*サブスクリプションの開始* を参照してください。

7. ライセンスの購入については、[ライセンスの購入](#) を参照してください。
8. ライセンスキーの再発行については、[ライセンスキーの再発行](#)を参照してください。
9. **[Systems setup (システムの設定)]** に移動して、システム名をクリックします。
10. **[Download license file (ライセンスファイルのダウンロード)]** をクリックします。
11. AXIS Body Worn Managerで、**インポート** をクリックします。

システムの設定

APNの追加と割り当て

モバイルネットワークを利用してストリーミングを行う場合、一部の携帯電話会社では、装着式システムにアクセスポイント名 (APN) を追加する必要がある場合があります。カメラで複数の携帯電話会社のSIMカードを使用している場合（たとえば、複数の国で使用している場合など）、複数のAPNを追加する必要がある場合があります。

システムにAPNを追加するには:

1. AXIS Body Worn Managerで、[Settings (設定)  > Camera (カメラ) > Mobile networks (モバイルネットワーク)] に移動します。
2. [追加] をクリックします。
3. お使いの携帯電話会社が使用するアクセスポイント名を入力します。
4. このAPNをデフォルト設定にしたい場合は、[Use as default (デフォルトとして設定)] を選択してください。

このデフォルトのAPNは新規のSIMカードに自動的に割り当てられますが、すでに使用中のSIMカードには割り当てられません。すでに使用中のSIMカードについては、APNを手動で割り当てる必要があります。

カメラに挿入されているSIMカードのAPNを手動で割り当てるか変更するには:

1. AXIS BodyWorn Managerで、Cameras (カメラ)  に移動し、カメラをクリックします。
2. [Access point name (APN) (アクセスポイント名 (APN))] で、使用したいAPNを選択します。

カメラプロファイルにAPNを割り当てるには:

1. In AXIS Body Worn Managerで、Camera profiles (カメラプロファイル)  に移動し、リストからカメラプロファイルを選択します。
2.  をクリックします。
3. このカメラプロファイルを使用するユーザーに割り当てるAPNを選択します。
4. Done (完了) をクリックします。

詳細情報

ライブビデオストリームを視聴するためのオプション

ビデオストリームを視聴するためのさまざまなオプションがあります：

- Milestone XProtect® や Airship AI などのビデオ管理ソフトウェアを介して、AXIS Body Worn Live Self-hosted Server アプリに接続します。このオプションでは、複数のクライアントがライブストリームを視聴できます。
- シンプルなウェブクライアントをウェブタイルとしてビデオ管理ソフトウェアに組み込みます。以下のURLをご利用ください: `https://[live_self-hosted_server_device_IP]/local/BodyWornLiveSelfHosted/index.html#/targets/[camera_MAC_address]?compact`。このオプションでは、ライブストリームを視聴できるクライアントは1つだけです。
- ブラウザからAXIS BodyWorn Live セルフホストサーバーアプリに接続します。このオプションでは、ライブストリームを視聴できるクライアントは1つだけです。

ライセンス

24時間の間にライブストリーミングが有効なカメラプロファイルを持つユーザーに割り当てられたカメラの数 (過去1週間の平均) によって、必要なAXIS Body Worn Liveライセンスの数が決まります。

固定割り当てのカメラ割り当てを使用している場合でも、自己割り当てのカメラ割り当てを使用している場合でも、ライセンスモデルは同じです。

使用するライセンスの数を最小限に抑えるために、ライブストリーミング専用のカメラプロファイルを用意することをお勧めします。

Axisの製品とサービスのライセンスの詳細については、My Systemsユーザーマニュアルを参照してください。

日常的な使用

ライブストリームの開始

ライブストリームを開始するには、以下の手順に従います。

1. 装着式カメラの機能ボタンを2回押します。録画LEDが赤色に変わり、カメラのモデルに応じて次のLEDが点灯します。
 - Wi-Fi接続® LEDが黄色で点滅し始めます。
 -  が白に変わります。
2. カメラが接続を確立すると、カメラのモデルに応じて次のようになります：
 - Wi-Fi接続® LEDが緑色で点滅し始めます。
 -  青色になります。
3. カメラがストリーミングを開始すると、カメラのモデルに応じて次のようになります：
 - Wi-Fi接続LEDが緑色に変わります。
 -  が緑色に変わります。

注

すでに録画済みかどうかに関係なく、ライブストリームを開始することができます。まだ録画していない場合は、ライブストリームと同時に録画が開始されます。

トラブルシューティング

いくつかの問題のトラブルシューティングには、AXIS W102およびAXIS W120装着式カメラのトラブルシューティングモードを使用できます。スイッチをオンにします：

1. AXIS Body Worn Managerで、[Add-on services (アドオンサービス) - 2. [Self-hosted overview (セルフホストオーバービュー)] で、[Show more (さらに表示)] をクリックします。
- 3. **トラブルシューティングモードを許可する**をオンにします。
- 4. 装着式カメラでライブストリームを開始します。
- 5. トップボタンを2回押します。
次のページを表示するには、上部ボタンを1回押します。
トラブルシューティングモードを終了するには、上部ボタンを5秒間長押しします。

情報は次のようにページ別に配列されています：

ページ1：

- ・ システム時刻
- ・ ネットワークステータス (NET)
- ・ Wi-Fiまたはモバイルネットワークモード (Submode WLANまたはLTE)
- ・ 信号強度 (dB)
- ・ 接続ステータス

ページ2 - Wi-Fi使用時：

- ・ SSID
- ・ 認証方法 (Auth)
- ・ カメラのIPv4アドレス
- ・ 認証ステータス (ステータス)
- ・ 接続されているアクセスポイントのMACアドレス

ページ2 - モバイルネットワーク使用時：

- ・ カメラのIPアドレス
- ・ ローミング状態
- ・ SIMの状態
- ・ APN

ページ3：

- ・ カメラが使用するネームサーバ

ページ4：

- ・ AXIS Body Worn Live, Self Hosted サーバーデバイスのステータス (Server)
- ・ ビューワーククライアントのステータス (Peer)
- ・ エンドポイントクエリーからのレスポンスコード
- ・ Live Self-hosted ServerデバイスのIPアドレス (Sig IP)

ページ5 - MQTT接続状態：

- ・ MQTTブローカーへの接続状態 (MQTT)
- ・ MQTTブローカーのIPアドレス

一般的な問題

問題: ライブストリームがクライアントに表示されない。

現象	原因	解決策
AXIS Body Worn Live, Self Hostedにアクセスできない。	- ファイアウォールの問題 - ポートフォワーディングの問題 - DMZルール - プロキシが必須	AXIS Body Worn Live, Self Hostedにポート443経由でアクセスできる場合は、[Settings (設定)] > [Health (ヘルス)] に移動し、[Perform ICE self-test (ICEセルフテストの実行)] をクリックします。 それ以外の場合は、PowerShellコマンドを使用して接続を確認します： - Test-NetConnection [IPv4 address] -ポート 8082 - Test-NetConnection [IPv4 address] -ポート 3478 - Test-NetConnection [IPv4アドレス] - ポート 8883

問題: ライブビデオをストリーミングしようとする、装着式カメラがリストに表示されない。

現象	原因	解決策
トラブルシューティングモードをオンにしても、Self Hosted Serverデバイスに関する情報が表示されない。	カメラにはデバイスに接続するために必要な情報がありません。	カメラをドッキングして、装着式システムと同期します。
ボディ装着カメラがリストに表示されません。	- ファイアウォールの問題 - ポートフォワーディングの問題 - DMZルール - プロキシが必須	トラブルシューティングモードをオンにして、カメラがpingを試行できるネットワーク テスト エンドポイントを入力します。
証明書の有効期限が切れている可能性があります。	カメラ、Self Hosted Serverデバイス、装着式システムの時刻が同期していません。	- カメラの時刻とSelf Hosted Serverデバイスおよび装着式システムの時刻を確認し、比較します。 カメラの時刻を確認するには、トラブルシューティングモードをオンにします。 - カメラの時刻がデバイスやシステムの時刻と異なる場合は、カメラをドッキングします。 - AXIS Body Worn Managerで、カメラにRTCエラーがあるかどうかを確認します。

		うかを確認します。エラーがある場合、AXISのサポートに連絡してください。 4. RTCエラーがない場合は、システムコントローラーとSelf Hosted ServerデバイスにNTPサーバーを設定して時間を同期させます。 5. 設定をやり直します。
	証明書の有効期限が切れています。	AXIS BodyWorn Managerで証明書を更新し、設定をやり直してください。
	カメラとSelf Hosted Serverデバイス間に証明書の不一致があります。	AXIS Body Worn Live, Self Hostedのログファイルとシステムレポートに、不一致のエラーがないか確認します。エラーがある場合は、カメラをドッキングして設定をやり直してください。
AXIS Body Worn Liveのライセンスが失効している可能性があります。	ライセンスの有効期限が切れています。	ライセンスを更新してください。
トラブルシューティングモードをオンにすると、 シグナリング IPがありません と表示されます。	DNS設定が間違っています。	DNS設定を確認してください。

問題: 装着式カメラはリストに表示されるが、ストリーミングできない。

現象	原因	解決策
デバイスと通信できませんというメッセージが表示されます。	全ICの候補に失敗しました。	Chromeの <code>chrome://webrtc-internals/</code> 、またはFirefoxの <code>about:webrtc</code> を使用して、ネットワークインフラストラクチャーを改善してください。
ビデオのレンダリングが非常に悪くなっています。ビデオクライアントの情報ボタンをクリックすると、ビットレートが360pでは2.5 Mbps未満、720pでは8 Mbps未満になります。	UDPパケットがドロップされます。	ネットワークインフラストラクチャーを改善して、スループットを向上させます。1台のカメラをシミュレートし、UDPスループットを確認するコマンドの例:
ビデオのレンダリングが非常に悪くなっています。ビデオクライアントの情報ボタンをクリックすると、リレーモードが使用されます。	ピアツーピアストリーミングの代わりにTURNが使用されます。	• <code>iperf3.exe -サーバー</code> • <code>iperf3.exe -クライアント SERVER_IP -udp -ビットレート 8M -時間 30 -長さ 1460</code>

Wi-Fi問題

問題:装着式カメラがWi-Fiネットワークに接続されません。

現象	原因	解決策
トラブルシューティングモードをオンにすると、カメラにはIPv4アドレスが割り当てられません。	アクセスポイントで、WPA2™/WPA3™が許可されていません。	アクセスポイントでWPA2/WPA3を有効にしてください。
	Wi-Fiネットワークのパスワードが間違っています。	AXIS BodyWorn ManagerまたはAXIS BodyWorn Assistantで、正しいパスワードを入力します。
トラブルシューティングモードをオンにすると、認証されていないというメッセージがカメラに表示される。	Wi-Fiがこのカメラでは対応していない802.1X (WPA-EAP-TLS) を使用している。	WPA2-Personal/PSK または WPA3-Personal を使用してください。
	Wi-FiにカメラをブロックするMACフィルターが設定されている。	フィルターでカメラのMACアドレスを許可してください。
	Wi-Fiネットワークのパスワードが間違っています。	[Settings (設定)  > Camera (カメラ) > Wi-Fi networks (Wi-Fiネットワーク)] のAXIS Body Worn Managerで、Wi-Fiのパスワードを確認してください同じパスワードを使用して、別のデバイスを同じネットワークに接続してみてください。
トラブルシューティングモードをオンにすると、サブモードはLTEになります。	カメラの中にSIMカードが入っています。	カメラをオフにして、SIMカードを取り外します。
トラブルシューティングモードをオンにすると、アクセスポイントにはMACアドレスが割り当てられません。	ネットワーク名 (SSID) が正しくありません。	正しいSSIDを入力します。
カメラのディスプレイには  と表示されます。	カメラがWi-Fiアクセスポイントから遠すぎます。	カメラをアクセスポイントに近づけて使用してください。
装着式カメラがWi-Fi®ネットワークに接続しません。Wi-Fi接続LEDが赤色に点灯します/Wi-Fi警告が表示されます: 	カメラ装着者にワイヤレスネットワークが割り当てられていません。	を参照してください。
	カメラが30日以上ドッキングされていません。セキュリティ上の理由から、AXIS Body Worn Liveでは少なくとも30日ごとにカメラをドッキングする必要があります、ライブストリームは30日の間隔内にカメラをドッキングした場合のみ機能します。	カメラをドッキングして証明書を更新します。
	Wi-Fi ネットワークのネットワーク名 (SSID) またはパス	[Settings (設定)  > Camera(カメラ) > Wi-Fi

	ワードが間違っているか、設定されていません。	networks (Wi-Fiネットワーク)] のAXIS Body Worn Managerで、正しいSSIDとパスワードを入力してください。
	Wi-FiネットワークがWPA2からWPA3にアップグレードされました。	AXIS Body Worn Managerで、Wi-Fi ネットワークのパスワードを再入力してください。
	AXIS W100およびAXIS W101 Body Worn Cameraは2.4 GHz ワイヤレスネットワークのみサポートします。	ワイヤレスネットワークで2.4 GHzの周波数 帯域が使用されていることを確認してください。多くのスマートフォンでは、デフォルトで5 GHz周波数 帯域が使用されます。モバイルホットスポットに接続する場合は、スマートフォンの設定に移動し、2.4 GHz周波数 帯域を有効にする必要があります。

モバイルネットワークの問題

問題:装着式カメラがモバイルネットワークに接続されません。

現象	原因	解決策
トラブルシューティングモードをオンにすると、サブモードは WLAN になります。	カメラの中にSIMカードが入っていません。	カメラをオフにして、SIMカードを挿入します。
AXIS BodyWorn Managerで、SIM カードの状態が 不明 です。	SIMカードに互換性がありません。	携帯電話会社のサポートに問い合わせるか、別のSIMカードを試してみてください。
モバイルネットワーク経由でビデオをストリームできません/モバイルネットワークの警告が表示されます: 	カメラの電源がオンになっていてドッキングされていないときにSIMカードが交換されました。	カメラをドッキングします。
	カメラが、携帯電話会社ネットワーク携帯電話事業者によって有効化されていません。	- AXIS BodyWorn Managerで、Cameras (カメラ)  に移動し、カメラをクリックして、カメラの国際移動体装置識別 (IMEI) 番号を確認します。 - IMEIがブロックされていないか、imeicheck.comなどで確認してください。 - IMEIがブロックされている場合は、携帯電話会社に連絡して許可するよう依頼してください。

	SIMカードのPINが間違っているか、入力されていません。	AXIS BodyWorn Managerで、 Cameras (カメラ)  に移動し、カメラをクリックします。正しいPINを入力します。
	モバイルネットワークとインターネットをつなぐゲートウェイとして、携帯電話会社が指定するアクセスポイント名 (APN) を入力する必要があります。	1. AXIS Body Worn ManagerにAPNを追加するには、[Settings (設定)]  > Camera (カメラ) > Mobile networks (モバイルネットワーク) に移動します。 2. [追加] をクリックします。 3. ネットワークプロバイダーが使用するアクセスポイント名を入力します。 4. カメラのSIMカードにAPNを割り当てるには、[Cameras (カメラ)]  に移動し、該当のカメラをクリックします。 5. [Access point name (APN) (アクセスポイント名 (APN))] で、正しいAPNを選択してください。
	SIMカードが破損しています。	SIMカードを交換してください。
カメラをドッキングすると、AXIS BodyWorn ManagerでSIMカードがロックされているというアラートが表示されます。	SIMカードがロックされています。	PUKコードを使用して新しいPINを設定します。
カメラをドッキングすると、AXIS Body Worn ManagerにSIM PINが間違っているか、またはSIM PINが見つからないというアラートが表示されます。	SIMカードのPINが間違っているか、入力されていません。	AXIS BodyWorn Managerで、 Cameras (カメラ)  に移動し、カメラをクリックします。正しいPINを入力します。
 カメラディスプレイに表示されません。	この携帯電話会社は、このカメラが対応しているLTE帯域のいずれにも対応していません。	カメラのデータシートに記載されているLTE帯域を携帯電話会社の帯域幅と見比べて確認してください。
	カメラが無線用マストから遠すぎます。	カメラを無線用マストに近づけて使用してください。
トラブルシューティングモードをオンにすると、カメラに	モバイルネットワークとインターネットをつなぐゲート	1. AXIS Body Worn ManagerにAPNを追加

はIPv4アドレスが割り当てられず、APNも表示されません。	ウェイとして、携帯電話会社が指定するアクセスポイント名 (APN) を入力する必要があります。	するには、[Settings (設定)]  > Camera (カメラ) > Mobile networks (モバイルネットワーク)] に移動します。 [追加] をクリックします。 - ネットワークプロバイダーが使用するアクセスポイント名を入力します。 - カメラのSIMカードにAPNを割り当てるには、[Cameras (カメラ)]  に移動し、該当のカメラをクリックします。 [Access point name (APN) (アクセスポイント名 (APN))] で、正しいAPNを選択してください。
トラブルシューティングモードをオンにすると、カメラにはIPv4アドレスが割り当てられず、ローミングが無効になります。	モバイルネットワーク サブスクリプションでローミングが無効になっています。	- カメラをドッキングします。 - モバイル ネットワーク サブスクリプションでローミングを有効にします。
トラブルシューティングモードをオンにすると、カメラにIPv4アドレスが割り当てられます。	データ転送に対するクレジットがもうありません。	携帯電話会社にお問い合わせください。
トラブルシューティングモードをオンにすると、接続状態がICCID_EMPTYになる。	カメラの中にSIMカードが入っていない。	SIMカードを挿入してください。
トラブルシューティングモードをオンにすると、サブモードがICCID_MISMATCHになる。	カメラに挿入されているSIMカードがシステムに登録されているSIMカードと一致しない。	カメラをドッキングします。

T10214999_ja

2026-08 (M12.4)

© 2025 – 2026 Axis Communications AB